

## 第2回委員会でのワークショップの成果

### 【1 グループの検討成果】

#### 1) グループのメンバー

太田正治、柏原敏明、武田克明、橋本旅人、丸山徹也、須賀丈、柳澤英彦、松澤（ファシリテーター）

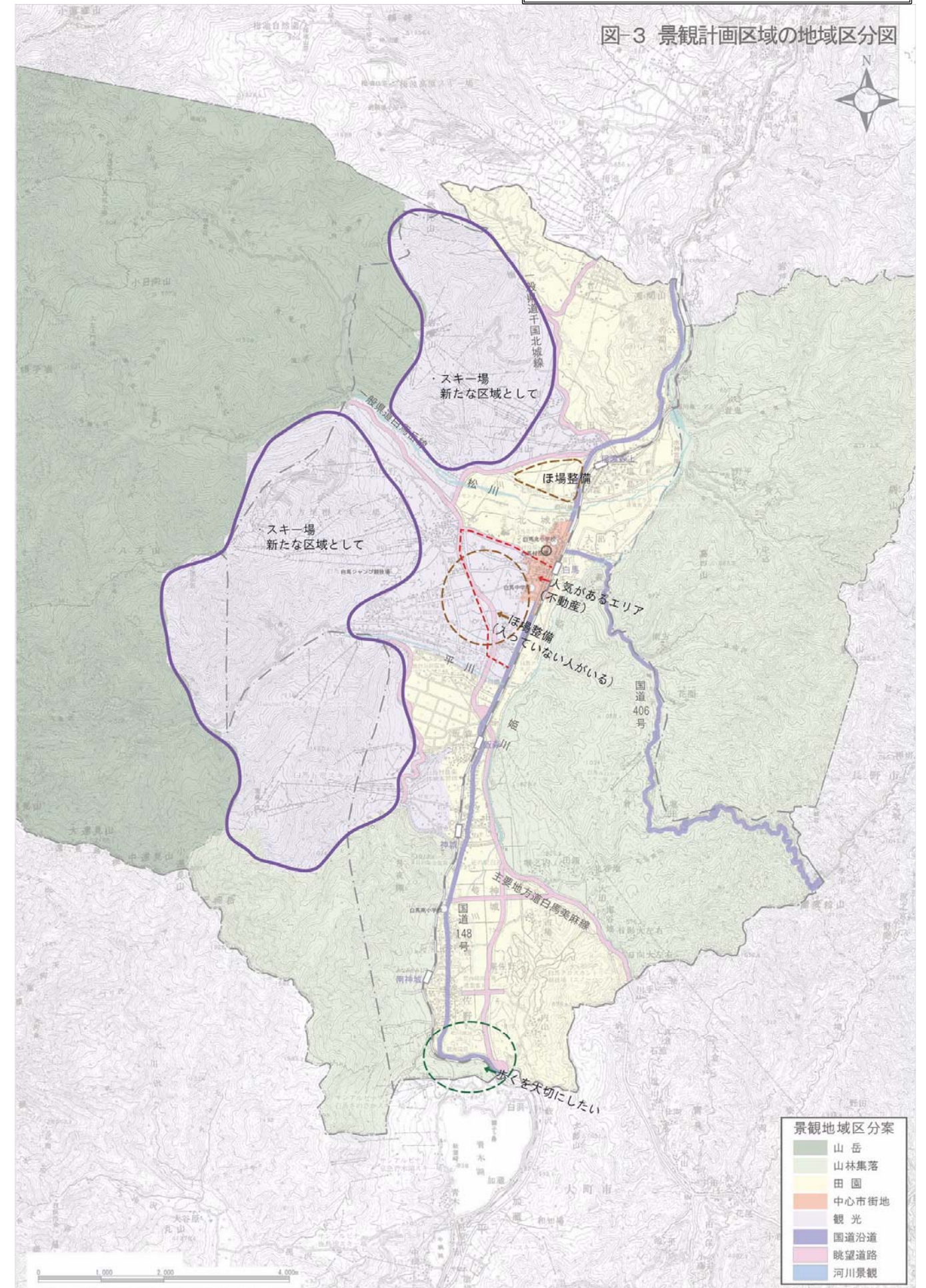
#### 2) グループ会議の様子



#### 3) 出された意見 →計画等への対応・方向性（案）

- ▶ スキー場として別の区域にしてはどうか。 → 「スキー場」として地域区分を追加設定する。
- ▶ 景観は、地権者意識が重要と思う。 → 方針等に、意識の醸成について盛り込む。
- ▶ 百選についても考慮したらどうか。 → 守るべき景観について考慮する。
- ▶ お客様が何を求めてくるのか。 → 外からの印象について考慮する。
- ▶ 白馬が誇れる景観を守る。 → 誇れる景観を明確にしていく。
- ▶ 白馬に住みたい人というのは山が見える場所である。 → 居住エリアは山の眺望を遮らない基準とする。
- ▶ 歩行者目線、歩行者優先という視点が大切である。 → 多様な観点での検討を進めていく。
- ▶ 眺望を守る場所を明確にする。 → 県指定眺望点などに配慮する。
- ▶ 里から見えない所は、規制を緩くしても良いのではないかと。 → 基準や区域にメリハリを付ける。
- ▶ 規制により不動産の流通性が悪化するのではないかと。 → 経済活動等に悪い影響が出ないように配慮する。
- ▶ 規制が強くなると廃屋が増えるのではないかと。 → 経済活動等に悪い影響が出ないように配慮する。

図-3 景観計画区域の地域区分図



【2グループの検討成果】

1) グループのメンバー

津滝俊幸、伊藤房光、池田昌彦、宮尾英明、尾上宏、宮崎哲也、藤原（ファシリテーター）

2) グループ会議の様子



3) 出された意見 →計画等への対応・方向性（案）

- ▶ 山間集落と田園集落を分けるのは難しいので、両方の良いところを持つ地域にする。  
→ 景観形成方針で差を持たせる。
- ▶ 河川景観は幅を広くし、特に姫川は太めに区域を設定する。→ 河川軸幅を広く設定する。
- ▶ 3河川の他に小河川も景観に配慮した整備が進んでいるので、河川景観に入れる。（木流川、大櫛川、谷地川、楠川、犬川など） → 河川軸に設定する。
- ▶ 国道406号は、眺望道路軸の方がふさわしいのではないか。→ 国道軸から眺望道路軸に変更する。
- ▶ 都市マスタープランの「中心市街地」は中心市街地へ（八方、みそらの）。→ 「観光」のため変更せず。
- ▶ ほ場整備の区域は田園の方が良いのではないか。→ 観光での要素が強いため変更せず(1グループと調整)。
- ▶ 地元の人が通る眺望の良い道路も、眺望道路として位置づける。→ 眺望道路軸に設定する。

図-3 景観計画区域の地域区分図

